



# 洋上アルプス

No.364 令和7年度

2月



2026年02月17日（火曜日）

「屋久島地杉苗採穂台木の仕立て方」現地検討会を開催 ～屋久島の森林を未来へ繋ぐ～

当保全センターでは、屋久島地杉苗の育苗生産に携わる関係者を対象に「屋久島地杉苗採穂台木の仕立て方に関する現地検討会」を石塚国有林 206 林班にて開催しました。当日は、林木育種センター九州育種場から4名の担当者を講師として招き、屋久島地杉苗生産協議会、鹿児島県、屋久島町、環境省屋久島事務所、九州森林管理局、屋久島森林管理署など、屋久島の関係者51名が集う大変貴重な機会となりました。

今回の検討会は、屋久島地杉苗の生産を安定的かつ効率的に進める上で重要となる、優良な採穂台木の仕立て技術を習得し、苗木生産等に対する課題の解決策などを含めた技術の向上を図ることを目的として開催しました。台木の仕立て方の質を高めることにより、後の穂木取り作業が円滑になり、苗木生産者の軽労化や効率化にもつながることが期待されます。また、現地で直接的な指導を受けることで、技術の習得がより確実なものとなり、これまで課題となっていた需要と供給のバランスの改善や、民有林への早期普及にも寄与するものと考えています。

検討会ではまず、当保全センター下村所長の開会挨拶のあと、屋久島森林管理署野邊署長挨拶、九州森林管理局技術普及課片山課長からの挨拶を受け、その後、奥村自然再生指導官から屋久島における苗木生産のこれまでの歩みや取り組みについて説明を行い、参加者全員が現状と課題を共通認識として共有しました。続いて、育種場職員による台木剪定の実演が行われ、剪定時の枝の見極め方、採穂拠点の育て方、作業時期の考え方など、実践的な技術が詳しく紹介されました。



仕立て方実演（拠点位置）（左）、説明と実演に聞き入る参加者（中）（右）

その後、参加者は各社ごとに演習を行い、実際の植栽木を使って台木剪定を行いました。講師が一人ひとりの作業を確認しながら改善点を助言したことで、参加者からは「理解が深まってきたので先ずは実践してみたい」「各年に実施しなければならないことは何？」など、戸惑いながらもすぐに実行へ移したいという声が多く聞かれました。また、作業後には検討会の総括や苗木生産課題などについて意見交換の時間を設け、これまでの経験や工夫、課題の共有など熱心な議論が交わされました。

最後に、屋久島地杉の苗木生産をどのように発展させていくかをテーマに、これからの展望について説明を行いました。参加者全員が技術力の向上と生産体制の強化が島全体の林業振興につながるという共通の認識を持ち、更には、世界自然遺産屋久島として、ヤクスギ由来の苗木生産は森林生態系維持にも不可欠なものであり、土台となる屋久島人工林地帯の森林の保全・整備に参加者皆で取り組んでいく姿勢を再確認しました。

当保全センターでは、引き続き、屋久島森林管理署と現地での指導や情報提供を進め、屋久島地杉の安定的な生産と普及に向けた支援を行って参ります。



各会社に分かれて演習（左）、各種資料について説明（中）、閉会の挨拶（協議会会長）（右）

## 2026年02月15日（日曜日） 令和7年度 ForestDay に参加

公益財団法人屋久島環境文化財団が主催する「Forestday」は、「森と人との関わり」をテーマに、森と人が織りなす持続可能な循環から「共生と循環」の文化を様々な団体と協働・共創して、島民に広く普及することを目的に、屋久島環境文化研修センターで開催されました。

当日は全体で約70名の参加があり、当保全センターは屋久島森林管理署と共同で、箸作り体験及びヤクスギ土埋木搬出の映像を放映しました。

箸作り体験では、屋久島産「地杉」or 熊本県産「ヒノキ」を選び、「かんな」で箸の形に削ってもらいました。大人でも初めて使う方の多い「かんな」の使い方に苦勞していたものの、だんだんと慣れ、うまく使う子どももいました。その後、サンドペーパーで表面を滑らかにして完成です。参加者からは「削るのが楽しかった！」と感想をいただくことができ、親子で楽しく話しながら1膳の

箸を作る体験は、良い思い出になったようです。箸を使うたびに今日の体験を思い出してくれたら嬉しく思います。

ヤクスギ土埋木搬出の映像は、2005年に当時の屋久島森林管理署職員が撮影したもので、今年度編集を行い初公開しました。当時の搬出の様子に興味を示してくれた参加者もあり、映像内のコメントに加えて詳しい解説も行いました。この映像については、今後も森林環境教育で活用していく予定です。

また、環境省や屋久杉自然館、木繋プロジェクト、主催の屋久島環境文化財団といった参加団体からは、土の中の生き物観察会、屋久杉クラフト体験や苗木作り体験などたくさんの催し物が実施され、盛りだくさんの1日となりました。



親子で和気あいあいと（左）、サンドペーパーで削って完成！（中）、映像の撮影者による解説（右）

**2026年02月05日（木曜日）～06日（金曜日）**

**ヤクシカWG・屋久島世界遺産地域科学委員会等を開催**

令和7年度第2回 ヤクシカ・ワーキンググループ及び特定鳥獣保護管理検討委員会と屋久島世界遺産地域科学委員会が、2日間にわたり鹿児島市宝山ホールにおいて開催されました。

2月5日、ヤクシカ・ワーキング及び特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議では、ヤクシカの生息状況や被害防止対策、森林生態系の管理目標及び植生モニタリング等について議論されました。



科学委員会で挨拶する池田計画保全部長

ヤクシカの推定生息頭数は令和6年度と比較してほぼ横ばいとなっており、来年度は調査手法統一の可能性等について協議する場の提案がありました。

森林のモニタリングによる植生状況は回復傾向にあるが、林床の植被自体はかなり低い状態で維

持されているので、今後も経緯を見て、しっかり見守っていく必要があるとの意見がありました。

また、第二種特定鳥獣（ヤクシカ）管理計画（R9.4.1～R14.3.31）の策定については、7月のヤクシカWGで計画骨子案の意見聴取を行うなどのスケジュール案が示されました。

2月6日、屋久島世界遺産地域科学委員会では、（ア）前回会議の議論整理、（イ）令和7年度世界遺産地域モニタリング調査等結果の概要、（ウ）令和8年度世界遺産地域モニタリング調査等計画、（エ）令和7年度第2回ヤクシカ・ワーキンググループ及び特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議、（オ）屋久島世界遺産地域モニタリング計画の改定、（カ）屋久島湿原保全対策について意見聴取が行われました。また、（キ）その他として、屋久島山岳部における今後のし尿処理適正化の方向性に対する意見書が出されたことを受け、これまで専門部会7回、ワークショップを2回、プロジェクトチームを2回行い、関係者との合意形成を重ねて来たとの報告がありました。

これに対し、科学委員会の場いきなり結論ありきのように、案を出されても困るとの意見もあり、今後のし尿処理適正化の方向性に関しては、科学委員会等での議論も参考にしつつ屋久島山岳部保全利用協議会で引き続き検討を行うこととしました。また、委員の若返りについては、事務局より来年度末で任期が切れる前に案を該当者へお知らせする等、活発な議論が行われました。

## 2026年02月03日（火曜日） 安房中学校 植樹体験 ～森を盛り上げよう～

安房中学校1年生22名を対象に、春牧地区の町有林をフィールドとした植樹体験を実施しました。

この植樹体験は、安房中学校より、当保全センターに要請があり、屋久島町役場産業振興課（以下、役場）及び屋久島森林管理署（以下、屋久島署）で対応しました。

当日は、当保全センター職員の進行のもと、役場の方に屋久島の森林や林業に関することを、お話しいただいた後、屋久島署の職員による植樹指導がありました。苗木は、屋久島町の施設である屋久島総合自然公園で育苗された屋久島地杉苗を使用しました。

生徒は2人組となり、慣れないクワを使用しながら穴を掘り、苗が抜けないように踏み固めながら植栽を行っていました。

生徒からは、「50年後、絶対植えた木が見たい」や「自分の植えた木が屋久島に残ると嬉しい」といった感想があり、この企画を提案した生徒からは「夢が実現できて本当に良かった」と感想をもらうことができました。

この体験をきっかけに、森林・林業について興味を持ち、将来の選択肢の候補として考えてくれたら、嬉しく思います。



役場の方による説明（左）、屋久島署職員による植栽方法の指導（中）、丁寧に植樹を行う生徒（右）

2026年02月01日（日曜日）

屋久島こどもエコ隊 ～遊々の森で19年ぶりに森林教室を実施～

公益財団法人 屋久島環境文化研修センター（以下、研修センター）から「屋久島こどもエコ隊」の講師依頼があり、研修センター及び遊々の森で森林教室を実施しました。

「屋久島こどもエコ隊」とは、これからの屋久島を担っていく地元の子どもたちの環境保全活動及び学習を支援するとともに、それらの体験を通して、広く環境に関心を持ち、自らの責任と役割を自覚し、環境保全活動に積極的に参加する態度を養うために、研修センターが実施している事業です。

当日は、島内の小学3～6年生10名が参加し、研修センターにおいて林業の全般的な話や森林生態系について講義を行いました。屋久島に生育している植物のクイズを行い、緊張をほぐした後、屋久島の森林を林業という視点でも見てもらえるように、木材の利用方法の多さや植林等の重要性について、イラストや林業機械の映像を交えながら説明しました。

その後、遊々の森まで移動し、天然更新したスギの枝打ちと除伐体験を実施しました。参加者は班に分かれ、慣れないノコギリを使用して体験活動を行いました。苦戦しながらも、伐れた時に「きれた～」と満足気な顔をする参加者もあり、こちら嬉しく感じました。除伐したスギの年輪を数えたり、スギ種子や枝打ち等の作業について説明したりとしながら、1時間弱作業を行いました。最後に、平成17年に落下した枝から採穂して育て、遊々の森に植えている「縄文杉のさし木苗」について説明し、森林教室を終了しました。

今回の経験が将来、森林・林業に携わるきっかけになってくれたらと思います。



研修センターでの講義（左）、人工林と天然林の違いを説明（中）、ノコギリの使い方を指導する森林官